

YELL

vol.14



株式会社クラロン
会長 田中 須美子



福島県立福島西高等学校
野球部



採用と教育研究所
所長 半田 真仁

福島県福島市にある、1956年に創業し、2016年で創業60年目を迎えた「株式会社クラロン」。

2016年12月16日、福島県福島市にある福島県立福島西高等学校の野球部のみなさんは株式会社クラロンを訪れました。そこで、株式会社クラロンの会長の田中須美子さんと高校生たちとの対話が行われました。今回のYELLでは、その時の様子をお伝えします！

会長： 西高の野球部の皆さん今日はよくいらしてくださいました。ありがとうございます。学校のすぐ近くにクラロンはあるのですが、ご存じない方もたくさんいらっしゃると思います。でも私の方では西高さんに体操着をお納めしておりますので、西高さんはお得意様、お客様としてよく存じ上げております。いつもご愛顧をいただいておりますありがとうございます。

今日は思いがけずこのような機会をいただいて、まずは半田さんの方からご説明があったと思いますが、クラロンの仕事内容などを知っていただきたいと思っております。これまで講演会などでお話をしたことがありますけれども、主に経営者の方や年配の方相手が多かったのです。



こうやって高校生の方を前にし、とても楽しみにしておりました。よろしくお願いたします。

(会社説明の映像鑑賞する)

半田： 事前に西高の皆様からご質問を頂戴しておりましたので、その質問からまずお話いただきます。会長が(回答に)困ってしまいました質問がありまして、それについては皆さんからのお話をお聞きしたいそうです。

会長： 若い人たちとお話しするというのはいいですね。エネルギーをたくさんもらおうと思っております。今まで若い人からの質問って受けたことがないものですから、前もってどんな質問があるかを半田さんに知らせていただきました。そうしましたら、まず、一番は「人は何のために働くのか」という質問をいただきました。これは私、初めての質問です。よく、「人は何のために生きるのか。」そういうことは世間一般でお話ししますよね。でも「何のために働くのか」ということになると、私の年代では、何のためというよりも、働くということは自然であって、よく昔は「働かざる者食うべからず」「稼ぐに追いつく貧乏なし」とか言いました。聞いたことありますか？そういう言葉。初めて？そういう言葉のある時代に育ったから「何のために働くか」って聞かれると皆様になんとお答えしたらよいか分かりませんでした。逆に皆さんに「では、何で働かないのか。働く必要がないのか」ということを私の方が質問したいと思いました。

実はこのことで一晩頭を悩ませまして、一週間前に東京で尊敬する法政大学の坂本教授にお目にかかった際に「こういうわけで一週間後に若い方の前でお話することになっているのですが、先生はどう思われますか。」と教えを頂きました。すると坂本教授は、それは「人の役に立つため」、そしてもう一つ「人に感謝されたいため」、それから「人に必要とされたいため」、さらに「人に愛されたいため」とおっしゃいました。

そのとき私は、それに1つ付け加えました。それは、「自分のために働く」ということです。今までの4つは、人のために働くことでした。でも自分のために働くということも大事ではないかと思うのです。

この4つの言葉に私の1つの言葉を加えて、私自身の思っていることとして皆さんに今お話ししました。人の役に立つということや人に喜んでもらうということは、



▲田中須美子会長(中央)

やっぱり嬉しいですね。人の役に立つことが嬉しいというのは自己満足であっても、やっぱり嬉しいですね。

頼りにされる、信頼されるということも嬉しいことです。

次第に坂本教授のおっしゃった言葉が胸にしみて来ました。

逆に働かなくてもいいやと、働く必要がないと思っている方はいらっしゃるのでしょうか？

病気や何かで働けなくなったということとは別にして。ふつうの健康体、ふつうの精神を持っている人が。

だから、働くということは、生きていくという証拠だと思うのですよ。生きていくから働くのです。

では、なぜ生きていくのかということになったら、これはやっぱり自分が勝手に生まれてきたのではない。やはり、この世に生まれてきたということは、天の恵み、神の恵みであって別に偶然でもないのです。必然性があって生まれてきたのですから。

生まれてきたからには、やはり今の4つの言葉に繋がるはずですよ。「なぜ生きるのか」と「なぜ働くのか」の定義は同じではないかと思いました。

それについては逆に皆さんの意見を聞きたいと思っておりました。ちゃんとペンも用意してありますからおっしゃってください。

先生： ではまず、キャプテンから。

生徒(キャプテン)： 働かないと収入を得られないわけですので、収入を得て、将来家族ができたなら家族を養い、生活をしていくためだと思います。

会長： そうですね。それは必要なことですよね。お金を得る、収入を得る。言いにくいことであっても、これは一番必要なことですよね。

先生： では次は、公務員希望の生徒から。

生徒（公務員希望）： 自分は今消防士になりたいと思っています。人それぞれの仕事に対してどうしてこの仕事を選んだのかと言うと。自分は地域の人や、社会の人に貢献できるような仕事に就きたいと思っています。将来は消防士になって社会や地域の人のために働きたいと思っています。

会長： 今は皆さん学生だから、学校での学業に励む、あとは皆さん野球部だからスポーツに励む。そして、社会に出たら自分に合った職業を見つけるということが一番大事なことですよね。今おっしゃったように消防士になるとか。実は私の甥は消防署の所長だったのです。もう亡くなりましたけど。福島市の消防署長。頑張ってください。

生徒： ありがとうございます。

会長： 火を消してください。恋の火は消さないで。（一同笑）

先生： もう1人いきますか。

生徒： 自分は仕事といわれるとよく分からなかったのですが、自分が今やっている野球で考えてみました。何のために野球をやっているのかというのを考えてみると、野球は今後自分が社会に出た時に役に立つことが一番学べるスポーツだと思います。



▲高校生の話す内容に耳を傾ける田中会長

体力と忍耐力というのはどんな仕事に就いても必要なことだと思うので、自分は人間に生まれてきたからにはしっかり働きたいと思います。また、先輩と同級生が言ったように楽しく生きるためにも必要なことだと思います。

会長： とてもいいことだね。今スポーツで頑張っているというのは。社会に出てもスポーツで頑張るといふ、スポーツを職業にすることもあるわけですからね。今若いうちは、スポーツをやって身体を鍛えましょう。「健全な肉体に、健全な精神が宿る」ということわざが昔からありますよね。まずは身体を丈夫にして、やはり頭が健全でなければ、身体もついていかないですし、両方健全にしましょう。とってもいいことですから、スポーツで頑張ってください。

生徒： はい。ありがとうございます。

会長： 次に行きましょうか。「仕事をする上で大切にしていることは何でしょうか」という質問がありました。自分の出来る仕事を見つけるということも大切。それから、その仕事に就いていくことも大切。特に男性の方は一生の仕事にしていかなければならない。そういう覚悟もしていかなければならないと思います。でも私はそうばかりとも思いません。仕事は辛いこと、苦勞なことではなく、楽しくやれる仕事を見つけることも大切です。うちの会社には障がい者が35名います。その一人がある時病気になって、2週間休みました。そして、退院した次の日出勤してきたので、私は「こんなに早く出てきていいの？まだ体が慣れなくても大丈夫なの？」と言ったのですよ。そうしたら、やはり貧血で倒れてしまったのです。だから私は「少し休みなさい。うちの会社はあなたが何日休んでも解雇するなんてことはしませんから。」と言って帰ったのですが、一日休んで次の日にまた出勤してきました。

これは親御さんが、「お前早く行かないと会社クビになるよ。」と言ったのじゃないかと思っていたのです。それからしばらく経ってその方の親御さんとお会いした折に、

「あんなに早く出させないで、もう少し休ませたら。」と言ったところ、実は本人が「会社に行きに行くのが楽しい。お友達に会うのが楽しい。お昼にみんなでお弁当を食べるのが楽しい。おしゃべりするの楽しい。だから家にいるより、会社にいる方が楽しい。」と言って無理やり働きに出ていったということだったのです。

また、ある子が、忌引きの時も休まないで出てきたのですよ。私びっくりしまして、この時も親御さんに忌引きなのに大丈夫なのかと電話してみると、やっぱり本人が「会社に出て行くのが楽しい」って言うのだそうなのです。それを聞かされた時は本当にこの会社をやっている良かったと思いました。殊に障がいを持っている子供というのはすぐにはどこでも雇ってくれないのですよ。会社で皆さんを採用しているということは何かやはり社会にとっても私たちも貢献しているのじゃないかと、この会社は絶対に無くしちゃいけないと、そういう風に思いました。

だから、やはり仕事というものは楽しくやるべきだと思います。そうでなくては続かないですし。それでも、自分が職業に就いても、「これは自分に合わないのじゃないか」と思うことがあるかもしれません。でも私は「道はひとつではない」と思います。いくつでも道はあると思います。よく昔の人に自分の道は一本道だと言われた方がいらっしゃるけれども、私は、道は何本でもあっていいと思うのです。だから決してへこたれるなど。そしてもし自分に合わないのではないかとこの時はもう引き返しましょう。よく山に行って遭難した話がありますが、どうしても頂上まで登り切りたいという気持ちで登って行っても引き返すのも勇気なのです。皆さんも聞いたことがあると思いますが、引き返すことも勇気なのです。だから「自分の進む道は一本だけではない」と、そういう風に思ってもいいのではないのでしょうか。

半田： ありがとうございます。



▲対話の様子

会長： 皆さん、何年生ですか？3年生？

先生： 1年生と2年生です。

会長： となるとまだこれから一年二年はあるわけですね。そうすると将来自分の就く職業についてはどうなのですか今から考えているものなのですか？

先生： やはり公務員志望とか就職希望の生徒は考えていると思うのですけれども。

会長： 皆さん自分のこれからの職業について考えていますか？

先生： 自分の職業のことについて誰がどのくらいまで考えているのか、私も分からないのです。

半田： では、聞いてみましょうか。

会長： はい。

半田： では、あちらの方から。

生徒： 自分は今、高校卒業後に就職を考えています。ただ、自分に合っているもの、自分に適しているもの、自分のやりたいことというのが具体的に見つからなくて。今のところ卒業後について具体的に考えると何も決まっていないうような状況です。

会長： やっぱりお家の職業を継ぐというのものもあるからね。

先生： 彼のご両親は飲食店を経営されています。

会長： それでは将来、ご両親はやはりお店を継いでもらいたいとお考えなのですか？

生徒： 父は自分自身が親に無理やり店を継がされた経験があって、自分には自由な将来を歩んでいいと言ってくれています。

会長： 親御さんとしての気持ちだね。

やっぱり親御さんは自分の仕事を継いでもらいたいという気持ちと自分が苦労したからこそ子供には違う道を歩んでほしいという気持ちがありますよね。でも皆さん決まっているというのは素晴らしいことですね。2年生1年生でね。すごいですね。

私が91歳だから皆さんは曾孫くらいの年齢だけれども私が皆さんくらいの年齢の当時は昭和14年くらいでしょうか、昔は女学校と呼ばれていたのですが、その頃は16歳。職業はみんな親が決めていたのです。男の子も。女の子は職業につくなんて事なかったですから。もう結婚するのが当たり前、嫁に行くのが当たり前。だから私たちもそういうことを初めから言われてきましたし、私は3歳のときからもうお嬢さんになる人が決まっていたから。何も知らない人ですよ。反抗して今の状態ですけども。その人とは結婚しませんでしたけれど。

半田： 会長は大好きなのです、旦那さんのことが。

会長も職業安定所に行って「ひめゆり部隊」に志願されたのですよね。

会長： 挺身隊というものがあましてね。戦争中に。職業紹介所、今で言うハローワークに自分で行って、沖縄に行きますと行ってサインをして親にも無断で志願したのです。そうしましたらなんとその職業紹介所の所長さんが私の父と友達だったのです。私は全然知らなかったのですけれども所長さんが住所と名前から私だと気付いて父に電話してしまったのです。父はもうびっくり仰天。私は監禁されてしまいました。

その当時、私は秋田の方のある繊維組合で働いていました。男性は皆召集されていなくなってしまうので、19歳の時にはもう組合の所長の次の地位になって仕事をしていました。「日本は絶対に勝つ」と思わされている中で挺身隊に行くぞと思っていましたら、その年に終戦になったので、行かずに済んだのですけれども。

半田： 行かれていたら間違いなく、今この世にはいらっしやらなかったですね。

会長： そうですね。でもあの時は行ってもうかまわないという気持ちでしたし、今でもそう思っています。別に行かなくてよかったなどは全然思いませんね。それだけその時の情熱というか信念というか純真だとか気持ちがありまして。今でもその気持ちは持っています。もちろんその後主人と結婚して、それはそれで幸せな生活でしたけれども。生きて主人と巡り会ったおかげでとても幸せな人生になったと今でも思っております。ちょっとお惚気話になってしまいましたね。

半田： この話の流れで行くと、明日になってしまいますね。(一同笑)

それでは次の質問にうつりましょうか。次は、「若者にこういう生き方をしてほしい」というようなことはありますか？」というご質問でした。

会長： これは先ほどにも言いましたように自分の将来ってものを一本の道ではなく何本も道があると捉えた上で、迷っていたら引き返すということですね。それからもう一つ皆さんにお願いしたいことがあります。それは「尊敬する師を見つけること」そして「友人を作ること」です。それには出会いを作ること。そしてさらに出会いの中から「心の友」を見つけることですね。親友は別に1人だけではなくていいと思います。2人でも3人でも親友を見つけることです。そしてさらに愛する人を見つけること。これは人生の上で私は一番大事なことです。そして私は今それを実行しております。愛する人は天国に行ってしまいましたけれども、心の友とする人は何人もいます。だから今私は独りではない。そして半田さんのお友達がおっしゃった言葉「あなたは独りではないよ。そばに誰かがいるよ」という言葉にいつも感動しております。人と人の繋がりを大事にすることです。皆さん親友はおりますか？よかった。寂しくないよ友達がいると。男とか女とか関係なく。

昔の格言に「小人(しょうにん・心が小さい人)は縁を見つけても縁を知らず」そして「中人(ちゅうじん・普通の人)は縁に出会っても縁に気づかない」さらに「大人(たいじん・立派な大人)は袖擦りあうも縁を生かす」というものがあります。私は今半田さんと縁を作っていますけれどもその縁も平成25年ですから3年前からですね。ある学校の教員採用試験の面接官をした時に初めてお会いしまして、担当が別になったのでその時に名刺を交換したきりお会いしなかったのですが、半年後に法政大学の坂本教授の講演会の場面で偶然再会いたしまして、名前も忘れていたのですけれどもそうこうしているうちにバタバタと今のような状態になっております。今では私の独り善がりですけども心の友にさせてもらっています。

半田： ありがとうございます。私はまだ38歳なのですけれども、会長は年下からでも年齢関係なく学べる姿勢というのがすごいなといつも思っております。

会長： 私の話は多分年寄りくさいと思えますよ。半田さんが私に合わせてくれているのだと思います。これも思いやりですね。

そして次は「感謝の心を持つ」これも大事ですね。これは誰に対しても同じことです。感謝の心のない所には幸せは生まれません。感謝しましょう。実は私の主人が亡くなった時に、机の引き出しを開けてみたら1枚のメモが入っておりました。それは主人が書いたメモだったのですけれども、その中にいくつかのことが書かれていました。「感謝をしたか」「挨拶をしたか」「感動をしたか」「この日一日満足の日であったか」そして「油断はするな」でした。というのも会社を経営している関係上、やはり世情に対しても経済に対しても油断をしないでやれ、という意味だったと思って今でも大事にしております。油断をするなどという悪い意味に取る人もいるかもしれませんが、やはりそれは私の大事な言葉となっております。皆さんも何か好きな言葉ってあるでしょ？



先生： では、好きな言葉を聞いてみましょうか。

生徒：好きな言葉は今までは無かったですけれども、田中会長のお話を聞いてこれからは「感謝」の言葉を大切にしていきたいなと思いました。

会長： はい、そうしてくださいね。感謝っていうのは誰相手にでも出来ることでしょう。まずは両親に感謝してください。一番大事なのは両親です。そして兄弟、お友達。今、皆さんは反抗期ですか？

半田： 今、反抗期の方いらっしやいますか？(一同笑)

会長： あんまりいませんね。

半田： 今、思春期の方はいらっしやいますか？(一同笑)

会長： 反抗期って男性より女性のほうが面倒臭いじゃない？

女子生徒： いえ、あまりそんなことはないです。

会長： 偉いわねえ。反抗期だと親と喋りたくないでしょ？親もどう扱ったらいいか迷っているのですよ。可哀想なのは親の方ですよ。小学3年生の教科書の「生産」のところクラロンが紹介されていて、授業の一環で福島市内の学校の多くの生徒が見学に来るのです。

すると主人はいつも工場の案内の他に色々なことを学校の先生以上にお話ししておりました。先生の講義よりも楽しいと言ってもらえた事もありました。その時に「親に向かって私を生んでくれてありがとうと言ってごらんなさい、お母さんたち感激するよ」とお話をしたところ、後に生徒さんから感想文をいただいたことがありました。台所でお母さんが家事をしている時にそつと後ろから腕を回して「お母さん、僕を産んでくれてありがとう」と言ったらお母さんがびっくりしてぼろぼろと泣き出してしまったそうなのです。私ももしそんなことを言われたら泣きますよね。親は皆さんを産んでここまで育てて、素直な子に育てさせたいと思っていてもそういう時に反抗されるとどうしたらいいのか、本当に可哀想に思います。迷っているのですもの。

でも皆さんどうしても照れくさいというのなら、食事しているときにでも「今日の〇〇美味しいよ」とひと言言ってみてごらんなさい。明日からすごいご馳走出るから。(一同笑)

言うのは勇気がいると思いますが。お母さんきっと喜びますよ。やってみましょう。先生：好きな言葉をもう一人くらい聞いてみましょう。誰か好きな言葉を言ってみてください。

生徒： ジャージに刺繍で自分の好きな言葉を入れているのですが、「一戦千笑」という言葉で、ずっと笑っていられるように野球をしていたので入れました。

半田： ジャージに入ってらっしゃるので。

会長： 「応援は力なり」なんて言葉もありますね。私は主人の後を引き継いで福島県の体操協会の会長をしていて各地によく応援に行っていました。スポーツは苦手なのですが好きなスポーツがひとつあります。日本古来の「薙刀」です。ちなみに主人は剣道で皇居の御前試合の選手に選ばれたこともありました。

私の女学校時代の薙刀の経験の中でも先生に「参った！」と言わせたことは今でも自慢できることです。ぜひ皆さんも野球で監督に参ったと言わせるくらい頑張ってください。ところでその一戦千笑とはどういう意味なのですか？

生徒： 自分は結構明るい方なので、プレーで落ち込んだりしないようにという意味も込めました。

会長： 自分でそういう風に言葉を作ってそれを信念に持てるということは良いことだと思います。多くの試合に全力を注いで自分も笑いたい、そして相手も笑わせたいということですね。頑張ってください。

半田： (元プロ野球選手の)新庄みたいな感じですね。それでは次に4番目の質問ですね。「大切にしている言葉はありますか」という、ご質問でした。

会長： 皆さんもきっとあると思います、大切な言葉。これは昔からの言葉でなくても自分で作った言葉でもいいです。私はたくさんあります。91歳まで生きてるとたくさん言葉が。その時代によって変わってもきますが変わらないで持っているという言葉があります。それは「人は鏡」という言葉です。今の時代はあまり使いませんが、言い換えると「人の振り見て我が振り直せ」の意味です。例えば相手が変な態度をしているとか変な言葉を使うとか変な服装をしているだとかいうような時、又自分がやられて嫌なことは自分も相手にやらないということです。ですから「人は鏡」を私は若い頃から自分の大切な言葉にしています。

それからもう一つは半田さんにもいつか申し上げましたが「一期一会」。これは皆さんもよくご存知だと思います。それから「一座建立」と「余情残心」がありますね。

この3つの言葉は実は茶の湯の言葉の中から井伊(直弼)大老が言った言葉なのです。これは半田さんがよく調べてくださった言葉なので説明お願いいたします。

半田： はい。3つセットの言葉なのですが、「一期一会」という言葉は皆さんご存知のように今日皆さんとお会いしていることですね。茶の湯というのは元々戦の前のこれから死ぬかもしれないという時にお茶を飲んで身震いさせるもので、皆さんで言うところの試合前の円陣を組むことのような行為なのです。戦は基本的に殺し合いですから「今日が最後かもしれない」という一期一会の気持ちでお会いさせていただくということでした。クラロンさんのおもてなしは全てこの3つの言葉に凝縮されていますね。

「一座建立」という言葉は男性より女性の方がありがちなのですけれども、お食事などに行かれるとどうしても仲良し同士でお話することが多いのですが、本日のような一座(人の一集団)の時は一つの話題で一人ぼっちの誰かを残さないように皆で会話をしましようという事です。これはお茶を立てるリーダーがそういうおもてなしの心で座を盛り立てていこうというものです。

「余情残心」というのは帰り際に「もう少し皆さんとお会いしたいなあ」という心を残した状態で最後までお見送りをして差し上げるということです。相手も「もう少しあなたとお会いしたいなあ」という時に「また」という気持ちをしっかり背中に残して帰っていただくというような言葉になります。

会長： ということで私もこの言葉が一番好きです。人は鏡というのは子供の時から私の心情でしたが。ですから会社にいらしたお客様でも、それから皆さんにこうして集まってもらった時でも一期一会です。再びお目にかかることは無いかも知れませんが。どこかでは会うかも知れません。でも今が一番大事な時、今ここでおもてなしをしようという気持ちで私は皆さんと向き合っています。

それから一座建立は皆さんと同じお話をする皆さんと同じ心構えをして一つの

話題でお話をしあう、楽しみあうということです。余情残心は半田さんがおっしゃったように名残を心に持ちながらまた機会があったらおいでくださいねという心を込めてお見送りをする、今日はそういう気持ちで皆さんとお話をしているつもりです。ということで丁度時間になりました。

半田： 何かご質問ありましたらお願い致します。

生徒： 会長さんにとって「生き甲斐」とは何ですか。

会長： 私の生き甲斐は、まずはこの会社をいつまでも長く経営していきたいということです。理由は障がいのある社員がいるからです。障がいは身体障がい者と知的障がい者、精神障がい者の3つに分けられます。うちの会社でいるのは知的障がい者が多いのですが、重複している人も少なくありません。今は働いてくれているそうした社員たちがいつかは定年退職しなければならない時が来ます。その時にどうするか、というのが今私の一番の悩みなのです。働けるうちは働いてもらえばいいのですが働けなくなった場合にどうするか。そうした方を収容してくれる施設を今考えています。それを見つけていくことが一つの使命です。

それから精神対話士というものがあります。私は年齢も年齢ですので力をもって何かをすることは出来ません。しかし、震災でいまだ苦しんでいる方などのお話を聞いてあげることが出来ます。皆さんも誰かから相談を受けたときに真剣になってお話を聞いてあげる、それが一つの精神対話士という言葉に詰まっていると思います。皆さんも是非お友達の頼りになれるようになってあげられたらいいと思います。私もそのつもりでおります。それが今のところの生き甲斐を見つける一つの鍵だと思っています。

半田： 突然話が変わりますが、健康の秘訣は「歯」ですよ。会長は全部ご自分の歯なのです。会長が好きな食べ物あるのですよね？

会長： シャケ！(即答で一同笑)
シャケと言っても(シャケの)皮。栄養あるのですよ。

半田： 会長のご自宅に行くと言ったのに豆とかアーモンドとかバリバリ食べられるのですよ。ご自分の歯なので。

会長： 全部自分の歯です。歯医者さんからはあんまり硬いものは食べないでくださいと言われてます。だんだん歳とってくると歯も弱くなりますから。でも柔らかいものは食べ甲斐がなくてね。こっそり隠れてバリバリと食べています。

(一同笑)

音出なくちゃ駄目だからね。

半田： 南部せんべいとかよく二人で夜食べます。

会長： 昨日青森に出張した従業員がいたのだけれど南部せんべい買ってきてくれて。(一同笑) 知れ渡っているのね。特に胡麻の南部せんべいが好きなのをみんな知っていていつも買ってきてくれるのです。半田さんがダンボール一箱分の南部せんべいをくれたこともありました。ご飯より好き。変な話になったね。皆さん野球やられている以上身体は元気ですよ？

半田： 会長は夜中に片足立ちでトレーニングされたりするのですよね？私は負けます。

会長： 若い方は何分もやられると思いますが、私は今頑張れば1分間くらいは出来ます。

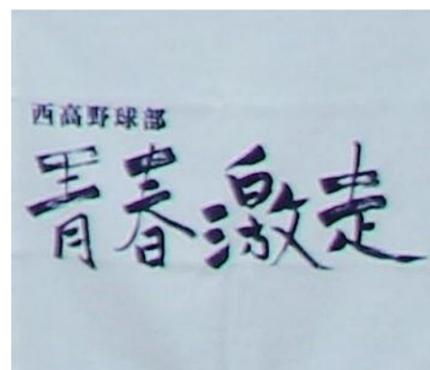
半田： 朝は新聞一紙読まれて昼には新聞二誌読んでとか、あとは中国の漢和辞典の故事成語とか読まれていますよね。クラロンさんと会長の本当に面白い話があるのでそれはまた次回ということで。

先生： 分かりました、以上ということで。

会長： それでは「余情残心」を持って、皆さんとお別れということで。またどこかで会いましょう。でも私音痴なのです。というのは音楽も音痴なのですが人音痴でもあるのです。一度お目にかかってもまた初めましてと言うかもしれませんから、その場合は「あの時あったでしょ」と言ってくだされば思い出しますから。

半田： 本日は会長から皆さんへプレゼントがございます。中を開けてもらってよろしいですか。

(福島西高等学校野球部のテーマである「青春激走」の字が入ったタオルを持って集合写真へ)



shinzi 書



株式会社クラロン

会社概要

株式会社クラロンは1956(昭和31)年に、故・田中善六さんと、妻須美子さん(現会長)が、メリヤス肌着の会社を社員ごと引き受け、福島市で創立した。今年で創業60年。1964年の東京オリンピックを機に「これからはスポーツ衣料の時代になる」と、事業の中心を肌着からスポーツ衣料に移した。

現在は東北や新潟、栃木、茨城などの幼稚園、小学校、中学校、高校、福祉施設など約1,200の施設に、運動着や介護衣料などを納めている。製造販売のほか、刺しゅうも一貫作業で行うことから、学校ごとのデザインなど細かい注文でも定評がある。

経営方針は「すべての人が望む健康づくりのため、スポーツウェア製造を通じ、社会に立って研究開発に努めた製品を廉価に提供することによって、学校教育やスポーツの発展に寄与する」としている。

創業当時の従業員は7人。そのうち3人は障がい者だった。1969年、中学校の先生から「知的障がいのある子を採用してくれないか」と依頼を受け、数人を雇用した。現在の社員134人のうち障がい者は36人いる。

社員の定年は60歳としているが、希望すれば延長することができる。現在は60歳以上の従業員が20人に上る。最高齢は80歳の女性営業課長。管理職の半分以上を女性が占めているのも特長だ。

敷地内には工場倉庫と事務館。かつては、障がい者や母子家庭の人たちが住む寮として、3階建ての福祉会館も設けていた。

2015年、第5回「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」厚生労働大臣賞に選ばれた。



▲『日本でいちばん大切にしたい会社』大賞にて、表彰を受ける田中須美子会長(中央)

福島県立福島西高等学校 野球部

長らく女子校であったが、平成7年に「福島西女子高等学校」から「福島西高等学校」と校名変更され、男女共学となった。

野球部は平成8年創部、今年で22年目となる。

創部以来、20年間専用グラウンドとして使用してきた地元企業の土地が平成27年9月末をもって使用できなくなり、練習場所を失った。学校の校庭を最大4つの部活動とシェアしながら練習することとなった。テーマは先輩より受け継ぐ「青春激走」。逆境を受け入れ、たくましく活動している。

地域に根ざした部活動を目指し、様々な活動を精力的に行っている。



▲毎年、クリスマスにサンタクロースの格好をして、地域のゴミ拾いを行っている。

採用と教育研究所



企業、自治体等の採用と教育を手がける。福島の企業を中心に、いい会社を目的に「仁財育成」のサポーターとして定評がある。

笑いが溢れ楽しく役立つ講演は経営者から学生まで幅広く人気で全国を駆け回る。

YELL 14号 発行 / 採用と教育研究所
〒960-8055 福島県福島市野田町 6-7-8 B103
TEL 024-529-5153 FAX 024-529-5794
E-mail: info@saiyoutokyouiku.com
http://www.saiyoutokyouiku.com